

空知のあゆみ

西暦	元号	事項
	江戸幕府	江戸時代における管内は、ある時は直轄、ある時は松前藩の所管となり、幾多の変せんはあったが、当時は和人の定着するものもなく、石狩川及びその支流沿岸に先住民が鮭を求めて住むほか、原始林が、うっそうと生い茂り、昼なお暗く、鳥獣の跳りようにまかせ、冬ともなれば深い雪におおわれる未開の土地であった。
1869年	明治2年	開拓使設置とともに蝦夷(えぞ)を北海道と改称し、本道を11カ国86郡に分け、国に郡を設けた。管内は石狩国に包含された。
1872年	明治5年	開拓使庁を札幌本庁改め、函館・宗谷・浦河・根室・樺太の5支庁を置き、空知は本庁の直轄となった。
1879年	明治12年	幌内炭鉱が開坑。
1881年	明治14年	樺戸郡に月形村を設置。樺戸監獄を設営して囚人の使役による石狩川流域の土木治水に努め、開墾するに及んでますます水路の便がひらけ、民家が建ちならび、当時の繁栄は札幌に比肩しうる程となった。
1882年	明治15年	開拓使が廃され、函館・札幌・根室の3県が置かれた。空知は札幌県に包含。空知郡に市来知村(いちきしりむら)を設置して、空知集治監を設営、管内の開発に寄与するところ大であった。手宮・幌内間に鉄道が開通し、幌内炭鉱の出炭が開始された。
1884年	明治17年	空知郡役所開庁(空知・夕張の2郡)
1886年	明治19年	3県1局(北海道事業管理局)が廃され、北海道庁が置かれた。
1890年	明治23年	札幌外5郡役所を分割して空知・夕張郡役所を市来知村に、樺太、雨竜、上川郡役所を月形村に置く。
1891年	明治24年	空知・夕張、樺太、雨竜、上川の5郡及びその他の5郡を併合して札幌外9郡役所の所管となった。
1896年	明治29年	みたび分轄して夕張、空知、雨竜、上川、樺太役所を岩見沢村に設けた。
1897年	明治30年	上川郡が分離し、空知、夕張、雨竜、樺戸郡役所となった。
同年	同年	道庁が官制を改正し、従来の郡役所を廃して支庁を設置することになった。
同年	同年	空知外三郡役所廃止。 道内19支庁の一つとして空知支庁が誕生。
支庁誕生から		
1897年	明治30年	空知支庁設置(空知、夕張、雨竜、樺戸が管轄区域となる) 設置年月日 明治30年11月30日 場所 現在の岩見沢市6条西1丁目
1900年	明治33年	空知支庁の管轄区域中、空知郡のうち富良野町を除く。
1916年	大正5年	12月10日、支庁庁舎移庁式(岩見沢市5条西6丁目1番地)
1918年	大正7年	12月2日午後1時30分頃失火により庁舎(約180坪)全焼。
1919年	大正8年	12月、庁舎並びに別館新築。
1947年	昭和22年	北海道空知支庁と名称変更。
1948年	昭和23年	1月28日、失火により庁舎(約194坪)全焼。
1949年	昭和24年	3月31日、庁舎(約374坪)新築。同時に別館(約103坪)新築。
1971年	昭和46年	10月23日、庁舎は岩見沢市8条西5丁目1番地に建築。
2006年	平成18年	北村と栗沢町が岩見沢市と合併。
2010年	平成22年	4月、北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条例が施行され、北海道空知支庁が廃止して北海道空知総合振興局が設置。
同年	同年	幌加内町が上川総合振興局の所管となり、現在の10市14町となる。